ばんじょうだにやま

19. 番城谷山５号墳

所 在 地：越前町天王・宝泉寺
調査原因：範囲確認
調査期間：平成 22 年９月１日～９月 29 日
調査主体：越前町教育委員会
調査面積：57 ㎡
時　　代：古墳時代

位置図（Ｓ＝１/50,000）

調査の概要　越前町教育委員会は越前町文化財悉皆調査事業の一環で、番城谷山５号墳の試掘調査を実施しました。平成 21 年度の測量調査により、墳長 55mをはかる帆立貝形の前方後円墳の可能性が高くなりました。今回の発掘調査では、墳丘規模の確認と造営時期の比定を主な目的としました。調査区は幅１mで、合計 10 か所。造出部・後円部・くびれ部、前方部など、墳丘周辺部を調査対象としました。

遺構　各調査区では葺石を検出し、墳丘裾部を確認しました。

第１トレンチ　造出部を検出しました。ただ、造出部に葺石はありませんでした。

第２・６・９トレンチ　後円部の周辺には葺石が存在しました。特に、古墳裾には川原石を配置しており、それを基底に石を積み上げていたことがわかりました。

第３・４・５・７・８トレンチ　前方部を十字方向に掘削しました。３トレンチでは塚状遺構により墳丘の一部が崩されていました。堆積土は葺石混じりの土です。塚状遺構の造営のために葺石を利用した可能性が高いでしょう。４トレンチには葺石はなく、平野から見えない部分は省略したものとみられます。５トレンチでは墳丘斜面に葺石が、５トレンチとの接点付近で埴輪列が確認できました。７・８トレンチでは葺石の検出が少なかったです。おそらく前方部ついては基本的に葺石はなく、後円部側や平野から目立つ部分にしか葺いていなかったのでしょう。

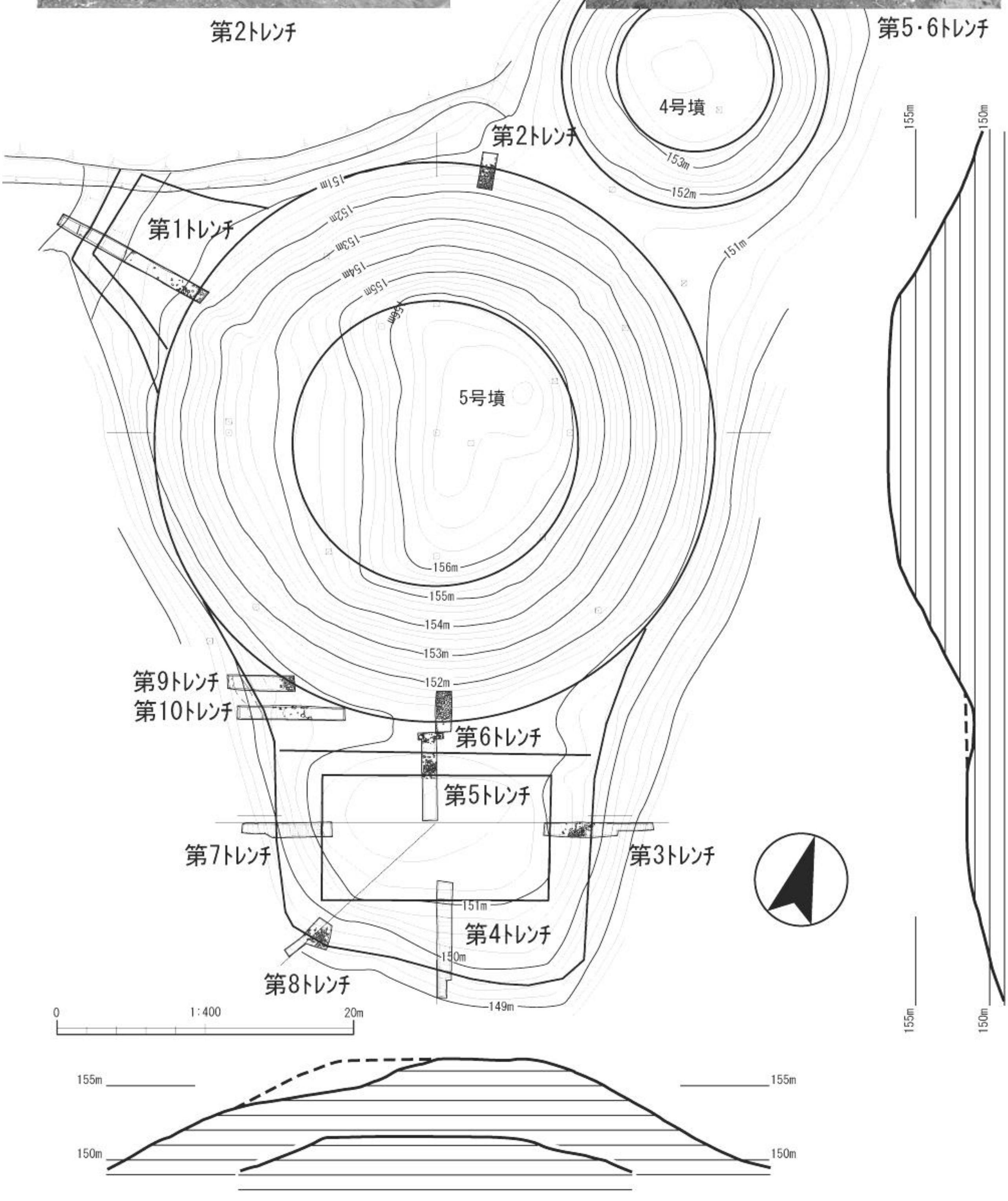
第９・10 トレンチ　本当に番城谷山５号墳が前方後円墳なのかを明確にするために、くびれ部あたりを調査しました。９・10 トレンチにかけて墳丘裾部のラインが明瞭に認められたことから、一体型の前方後円墳の可能性が高くなりました。また、10 トレンチにおいても埴輪列が検出されました。5トレンチにつながる後円部の外縁をめぐる埴輪列と考えられます。

遺物　各調査区から埴輪が数多く出土しました。主に円筒埴輪ですが、朝顔形埴輪の欠片も含まれていました。埴輪の時期から５世紀中頃という築造年代が明らかになりました。

まとめ　番城谷山５号墳は、丹南地区初の葺石・埴輪を両方持つ大型古墳です。５世紀中頃に限定すれば、越国の王に匹敵するような墓の規模となります。その被葬者は、相当な力を有する政治権力者であったことが推測できます。　（堀　大介）

第2トレンチ

第5・6トレンチ



番城谷山５号墳トレンチ配置図